

# 商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2024年7月調査結果-

## 調査概要

- 調査期間 2024年7月8日～7月31日
- 調査対象 200社
- 回答企業 135社
- 回収率 67.5%

### ※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

## 旭川市概況

※全産業の7月の状況を見ると業況DIは、前月より10.9ポイント改善の▲24.4となった。

2017年9月以来83ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲24.4、当月と比べ横ばいが見込まれる。

## 旭川市全産業DI値（前年同月比）の推移

	2024年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 2024年8月～ 2024年10月
業況	▲24.4	▲22.0	▲22.3	▲22.2	▲35.3	▲24.4	▲24.4
売上	▲14.7	▲13.3	▲18.0	▲25.7	▲19.6	▲17.8	▲11.1
採算	▲25.2	▲24.5	▲18.0	▲25.7	▲35.4	▲27.4	▲24.5
仕入単価	▲59.4	▲63.8	▲64.7	▲65.0	▲64.6	▲61.5	▲54.1
販売単価	25.2	25.2	35.2	26.4	36.0	35.6	27.4
従業員	30.0	37.0	38.9	35.0	35.3	31.8	34.0
資金繰り	▲13.8	▲11.0	▲12.3	▲12.2	▲17.3	▲11.9	▲12.6

## 旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2024年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 2024年8月～ 2024年10月
建設	▲36.7	▲11.6	▲33.3	▲25.8	▲50.0	▲35.5	▲38.7
製造	▲32.3	▲25.0	▲27.8	▲25.7	▲42.4	▲29.4	▲29.4
卸売	▲16.6	▲7.7	▲3.3	▲3.3	▲17.3	▲20.7	▲10.3
小売	▲21.0	▲30.0	▲25.0	▲30.0	▲38.1	▲20.0	▲25.0
サービス	▲5.2	▲39.1	▲21.7	▲29.2	▲27.3	▲9.6	▲14.3

## 今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・価格競争の影響を受け、官民共に元請工事の受注が難儀。資材労務費上昇も相まって売上高・収益の低調がしばらく続く見込み。局面を打開する具体策を講じる必要がある。（総合工事）</li> <li>・実質賃金の低下と消費者物価の上昇で家庭の購買力を圧迫している中、日銀の利上げが現実化すると住宅ローンの金利が上昇し新築住宅需要はさらに縮小する。一方で、資材コストの上昇もあり、収益の確保が一段と厳しくなる。国の基礎的財政収支の黒字化が予想されているが、経済の安定と成長を基盤とした財政運営の実行を願いたい。（設備・その他）</li> <li>・モデル住宅への集客が低迷しており新規受注は低調である。建築コストは高止まりし顧客の購買意欲が低下しているのは明らかであり、建築業界は当面厳しい状況が続くものと思われる。（建築業）</li> </ul>
製造業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主力商品の原材料である昆布の不漁により、原材料高騰・不足である。（食料品）</li> <li>・農作物が収穫を迎えているが、これからの気候、人員不足が気になる点である。（食料品）</li> <li>・印刷用紙・インキ・印刷物など主材料が軒並み 15%ぐらい値上げになってきている。（印刷・出版）</li> <li>・ここ最近の物価高の影響とコロナがあけて 1 年が経過したこともあり、消費者が普段の食料品と旅行への出費が中心となっていると感じられ、家具・木工品の購買意欲が低くなっていると思われる。（家具・木材）</li> <li>・全体的なコスト増に対して適切に対応していけるかが重要と考える。（金属窯業他）</li> </ul>
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・円安が加速した影響もあり、輸入コストがかなり上がった。度重なる値上げでマーケットでは拒絶感も出始めている。また、業界内の競争が激化しており弱体化する得意先も増えていると感じる。（繊維・衣服等）</li> <li>・取引先と電話連絡する事が多く、業務進行の妨げとならないよう定期的にスマホの機種交換を進めている。本年は夏の商戦が本格化する前に機種交換を行う予定。（飲食料品）</li> <li>・前年度と売上・粗利ともに同等程度の見込みである。（機械鋼材）</li> <li>・当月の業況については、前年同期と比べ微増となる。来月以降の見通しについて各営業担当者からの聞き取りをまとめると、閑散期に入り契約金額及び件数は伸び悩みも年後半に向けて徐々に回復するという見方が多かった。（その他）</li> <li>・灯油の仕入値は小幅に下がっているが、販売価格は現行のまましばらく続くと思われる。（その他）</li> </ul>
小売業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7 月 1 日よりサマーセールスタート。例年同様来店客数が減少するばかり。SNS にて顧客にお買い得情報を流し集客を計っている。（衣服身回品）</li> <li>・7 月は曜日廻りが悪く(土日が少ない)暦日で比較すると減収。加えて先日までは一品単価前年を上回っていたが、当月度は下落。一品単価下落は一過性と思われ次月度以降は上昇と考える。（食料品）</li> <li>・観光客が増えてきたこともあり、ショップへの来店者も若干増えてきた。商品の単価が全体的に上がったこともあり、販売数はそれほど変わっていないが売上は昨年より増えてきているのが良い傾向。（その他）</li> <li>・中古車の相場は改善しているが、例年夏場は新車の売上が苦戦するため広告宣伝やイベントへの参加を積極的に行い、売上の増加から採算の好転につなげていきたい。（自動車）</li> </ul>
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏場のイベントで人流による消費行動アップ。（理美容・クリーニング）</li> <li>・設備の老朽化による修理費の増加。（ホテル・旅館）</li> <li>・ここ数年、計画的に新卒採用出来ているので 20 代の若年層はいるが、30～40 代の中年層がいないため、技術の承継が大きな課題である。（その他）</li> <li>・暑さによる車の修理入庫が多かった。10 月の OBD 車検スタートまで更なる設備投資が必要である。（整備業）</li> <li>・人の動きが活発化してくることで個人消費も上向いてほしい。新紙幣の導入による両替機や自販機などの改造が必要で出費が大きい。資金難のこの時期になんとも切ない。（運送）</li> </ul>

## 旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI2.3 ポイント悪化、採算 DI8.4 ポイント改善、仕入単価 DI3.7 ポイント改善、販売単価 DI0.2 ポイント改善、資金 DI4.6 ポイント改善、従業員 DI8.4 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 14.5 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、総合工事 6 ポイント、設備・その他 14 ポイント、建築業 29 ポイント改善となった。受注増により前半は好転の兆し。人員不足はあるが応援迎えて今のところ乗り切れそうとの声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI3.9 ポイント改善、採算 DI10.2 ポイント改善、仕入単価 DI11.1 ポイント改善、販売単価 DI13.0 ポイント悪化、資金 DI9.4 ポイント改善、従業員 DI0.4 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 13.0 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、印刷・出版 7 ポイント悪化、食料品 38 ポイント、家具・木材 6 ポイント、金属窯業他 11 ポイント改善となった。まだまだコロナ前の売上高回復には程遠い状況が続いており、今後の先行きも不透明で対応が急務との声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI3.4 ポイント悪化、採算 DI 横ばい、仕入単価 DI10.3 ポイント悪化、販売単価 DI6.9 ポイント悪化、資金 DI 横ばい、従業員 DI 横ばいとなった。総じて業況 DI は 3.4 ポイント悪化となった。業種別では、繊維・衣服等 5 ポイント改善、食料品横ばい、機械鋼材 3 ポイント、その他 13 ポイント悪化となった。人件費を含めたコストの上昇と季節指数の変動に人員確保が追いつかないとの声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI10.5 ポイント悪化、採算 DI7.9 ポイント改善、仕入単価 DI21.4 ポイント改善、販売単価 DI1.7 ポイント改善、資金 DI0.7 ポイント悪化、従業員 DI7.4 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 18.1 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、自動車 40 ポイント悪化、衣料品横ばい、食料品 33 ポイント、その他 57 ポイント改善となった。従業員不足できめ細かな販売が出来なくなっている。物価高の影響で採算性が低下してきており、円安の影響で今後の仕入価格の上昇が懸念されるとの声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI28.6 ポイント改善、採算 DI18.0 ポイント改善、仕入単価 DI7.6 ポイント悪化、販売単価 DI24.8 ポイント改善、資金 DI12.6 ポイント改善、従業員 DI2.9 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 17.7 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、飲食 50 ポイント悪化、理美容・クリーニング、運送横ばい、ホテル・旅館 13 ポイント、その他 20 ポイント、整備業 100 ポイント改善となった。物価高による経費の増加との声も寄せられている。</p>